

ONKYO.



平成28年3月期 下期経常損益黒字化について
～平成28年3月期決算ハイライト～

2016/5/13

オンキヨー株式会社

1. 8四半期ぶりの**経常損益**黒字化
2. **下期** 営業損益、経常損益、純損益黒字化
3. **通期** A V事業、O E M事業営業損益黒字化

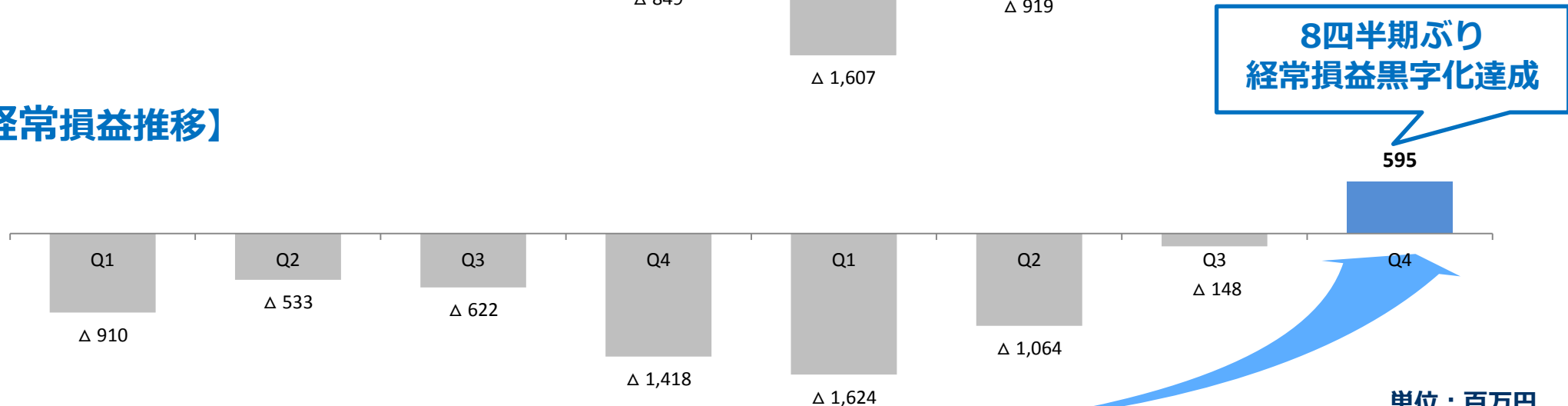
営業損益・経常損益の四半期推移

パイオニアホームAV事業統合後のAV事業の体質改善およびOEM事業の原価低減等の寄与により8四半期ぶりに経常損益黒字化を実現

【営業損益推移】



【経常損益推移】



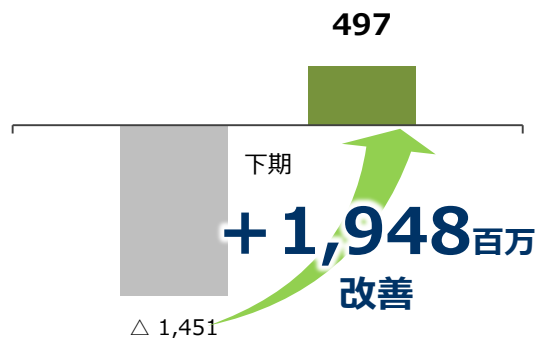
単位：百万円

2016年3月期 下期営業損益・経常損益・純損益について

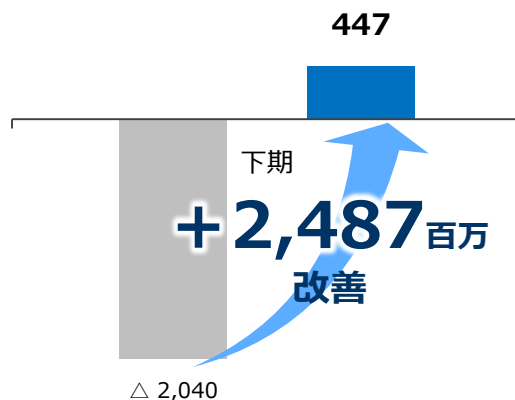
統合シナジー効果の更なる実現やデジタルライフ事業の拡大、OEM事業の原価低減を実行
また、Q4において一部保有資産を売却

下期営業損益・経常損益・純損益すべてにおいて黒字化を達成

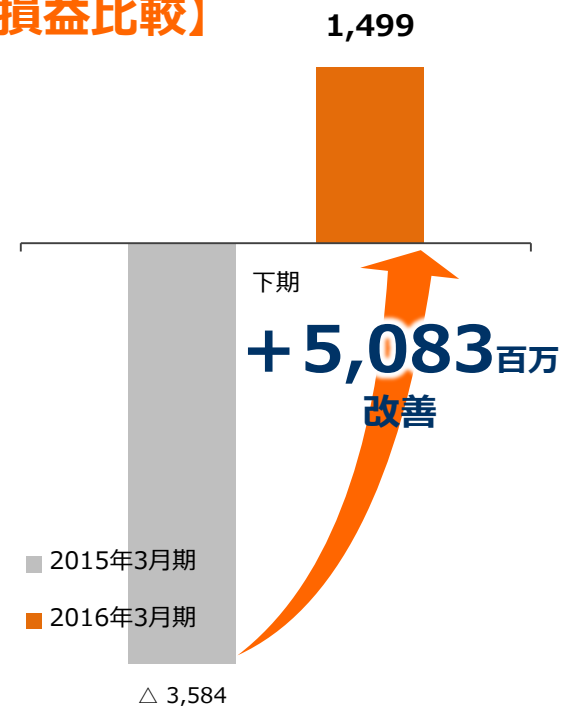
【営業損益比較】



【経常損益比較】



【純損益比較】



■ 2015年3月期
■ 2016年3月期

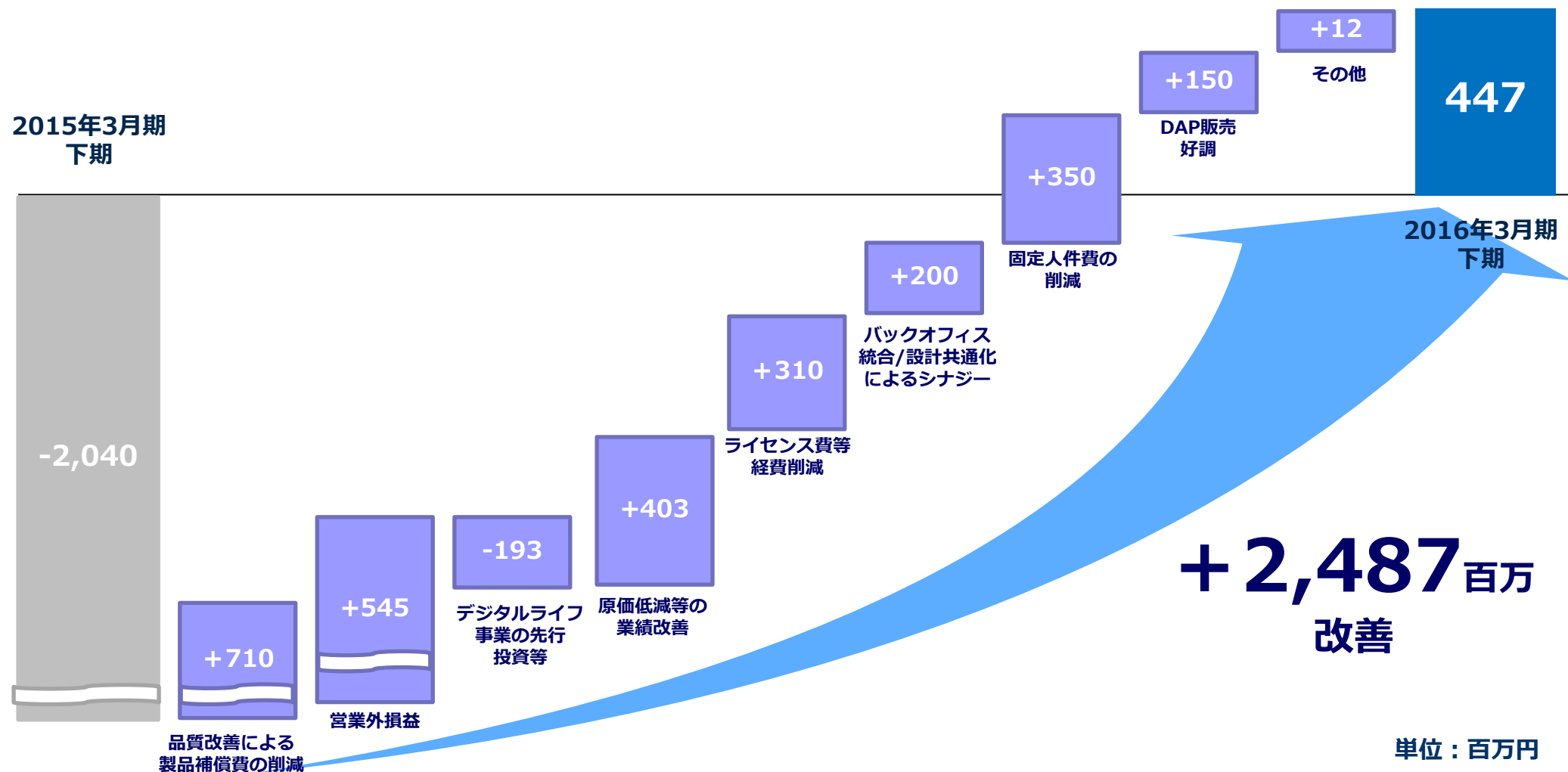
■ 2015年3月期
■ 2016年3月期

■ 2015年3月期
■ 2016年3月期

単位：百万円

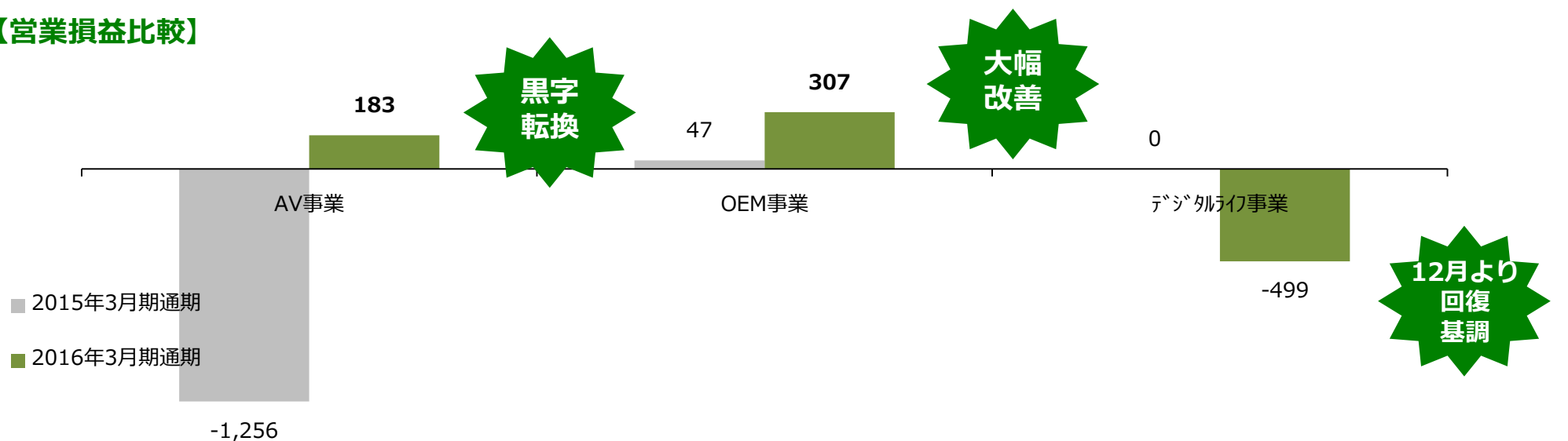
2016年3月期下期 経常利益の増益要因

原価低減等や経費削減が寄与し黒字化を達成



セグメント別 通期営業損益と主たる要因

【営業損益比較】



単位：百万円

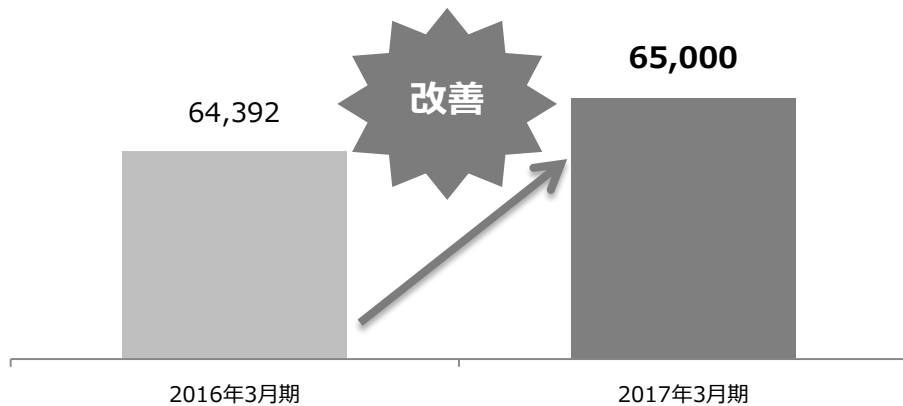
通期において、AV事業とOEM事業が黒字化を達成

- AV事業** 開発プラットフォーム共通化による設計費低減、固定人件費削減等により
パイオニアホームAV事業統合後約1年で通期黒字化を達成
- OEM事業** 原価低減やLED製品の製造等が順調に推移し大幅改善
- デジタルTV事業** 新製品の先行投資により損失が発生したが、DAP等の売上拡大により12月より回復基調

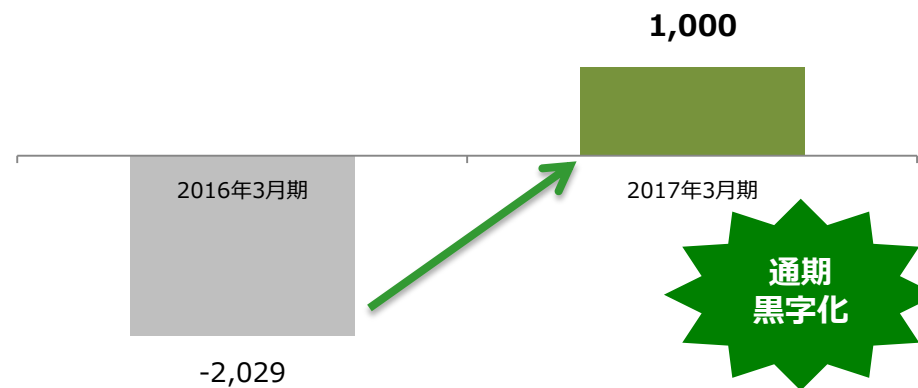
2017年3月期 連結業績予想

単位：百万円

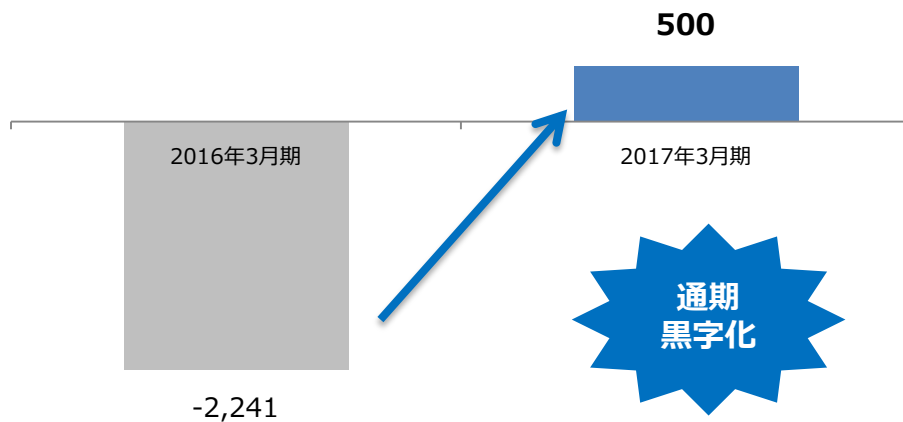
売上高



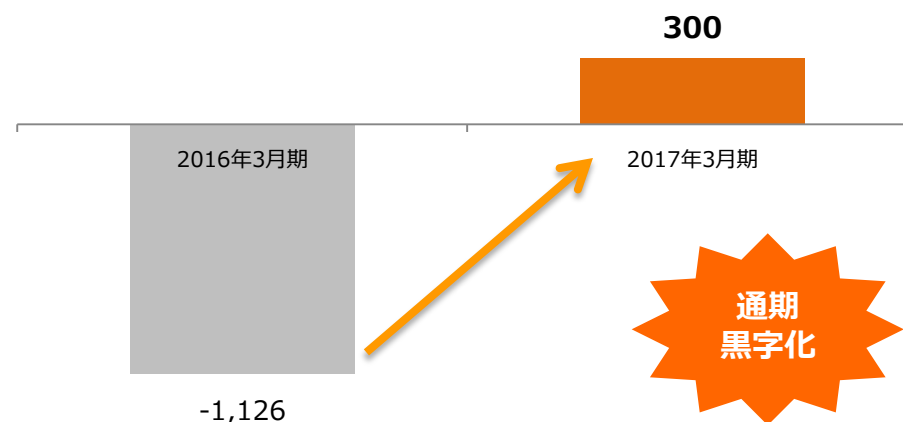
営業損益



経常損益



純損益



更なる成長に向けた取り組みについて（AV事業）

- 2015年に販売したAV製品の多くが統合前に企画・設計された製品であるため、シナジー効果は限定的
- 統合後に企画し、共通設計・自社生産など統合シナジー効果を楽しんだモデルは2016年半ばより本格的に業績に寄与
- 基本設計やノウハウは共有しつつも、音作り思想・搭載技術は差別化し、ブランドとしての特徴を明確化

【AVレシーバー2016年モデル】



オンキヨーブランド
TX-RZ810(B)



オンキヨーブランド
TX-NR656(B)

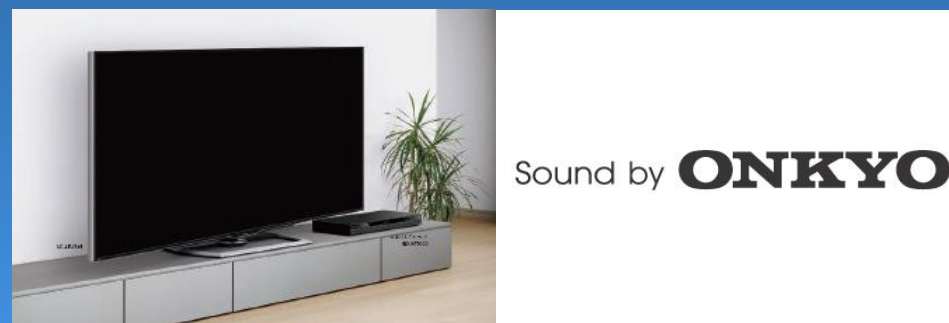


パイオニアブランド
VSX-831(B)

更なる成長に向けた取り組みについて（OEM事業）

河合楽器製作所との協業について
デジタルピアノの共同開発

- 共同開発コンセプトモデルを発表
- 当社のオーディオ技術と河合楽器のピアノ技術を融合し、デジタルピアノの新しい可能性を提案
- 当社の回路技術、アンプ技術、スピーカー技術に加え、デジタルオーディオプレーヤーを搭載
- 2016年4月にドイツで開催されたミュージックメッセに参考出品

シャープ製液晶テレビ「AQUOS」に
当社音響技術を採用

- 4Kテレビ「AQUOS」に当社技術を採用
- 音の緻密さや定位感をより自然に表現する高音質設計「Sound by Onkyo」
- 当社製の新開発スピーカーユニットを搭載
- 2016年6月より順次販売予定

更なる成長に向けた取り組みについて（デジタルライフ事業）

アーティストやコンテンツとの コラボレーションモデルを多数販売



- ヘッドホンを中心にアーティストやアニメやゲームとのコラボレーションモデルを販売
- 「IRON MAIDEN」や「聖飢魔II」などのアーティストコラボレーションモデル
- 「ラブライブ！」や「おそ松さん」などのアニメーションとのコラボレーションモデル
- 「バイオハザード」などのゲームとのコラボレーションモデル

世界初、高音質技術「MQA」に デジタルオーディオプレーヤーが対応※



- 高音質と利便性を両立した革新的な技術「MQA」にハードとソフトが対応
- オンキヨーブランド/パイオニアブランドのデジタルオーディオプレーヤーがMQAに対応
- 国内初、MQA音源をe-onkyo musicで配信開始

※2016年4月12日時点、当社調べ

ONKYO®

本資料に記載されている業績や見込、将来に関する記述等は資料作成時点において入手可能な当社およびその関係会社の情報に基づいて予測し得る範囲内で当社が作成したものであります。これらの記述はリスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を保証いたしません。実際の業績は今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。本資料における第2四半期、第3四半期、第4四半期の業績値は、当該四半期累計期間値または前四半期累計期間値を差し引いて算出したものであるため、実際の第2四半期、第3四半期、第4四半期の値と誤差が生じている場合がありますが、その差額は百万円未満です。なお、本資料に関する全ての著作権その他の権利は当社に属します。